

北陸地方の年齢階級別人口移動における 関係圏を用いた分析

人文学部人文学科社会文化コース人文地理学分野
11710030 岡村卓哉

1

目次

- ▶ I はじめに
- ▶ II 年齢階級別人口移動の特徴
- ▶ III 年齢階級別にみた関係圏の特徴
 - 1 若年移動の関係圏
 - 2 壮年移動の関係圏
 - 3 中年移動の関係圏
 - 4 後期高齢者の関係圏
- ▶ IV おわりに
- ▶ 参考文献・参考資料

2

I はじめに

研究の背景

- ▶ 人口減少が深刻化する中、東京一極集中が続き人口統計に大きな関心が寄せられている。
- ▶ 森川（2020a）は年齢階級別人口移動を分析することで、人々がどのような年齢でどこに移動しどんな生活をしているか推測できる。



日本の国土構造を知る手掛かりになる

3

既存研究①

研究対象地域を都道府県に設定し、市町村間の人口移動に着目したものがある。

- ▶ 橋本・村山（1991）…当時の愛知県における男女別、年齢別の人口移動パターンを明らかにした。
- ▶ 森川（1992）…兵庫県の市町村間の人口移動をいくつかのタイプに分類してまとめた。

4

既存研究②

研究対象地域を広域中心都市を持つ地方ごとに分けて分析を行った研究もある。

- ▶ 森川（2020a, 2020b）はそれぞれ北海道、東北地方の年齢階級別人口移動について「関係圏」という概念を用いて、分析した。
- この一連の研究の中では北陸地方については検討されていない。

5

研究目的

- ▶ 北陸地方の人口移動の特徴と他地域の人口移動の特徴を比較、検討する。そして、北陸地方の年齢階級別人口移動の一般的特徴と中心都市を中心とする「関係圏」の特徴について明らかにする。さらに都市の持つ階層構造を明らかにすることを目的とする

6

研究対象地域

- ▶ 新潟県, 富山県, 石川県
福井県の4県を北陸地方として
設定する。



図1 研究対象地域

7

研究方法①

- ▶ 本研究では、国勢調査 移動人口の男女・年齢等集計
(2015年)により得られるデータを使用する。
- ▶ 森川 (2020a, 2020b) の一連の研究の順番に沿って研究を
行う。

まず、北陸地方の年齢階級別人口移動の一般的な特徴について
説明する。

次に、「関係圏」という概念を用いて年齢階級別にみた関係圏
の特徴について考察する。

8

研究方法②

■用語説明

- ▶ 関係圏…ある都市が周辺2つ以上の都市から最大転出入超過先を得る場合
にその都市を中心都市とし、その圏域を「関係圏」と呼ぶ。
中心都市を中心とする人口吸引圏、人口排出圏のこと。
- ▶ 年齢階級別人口…若年人口 (15~29歳), 壮年人口 (30~49歳), 中
年人口 (50~64歳), 後期高齢者 (75歳以上) に分類し分析する。

9

II 年齢階級別人口移動の特徴

- 北陸地方の81市町村のうち
約65%が全人口・若年人口
共に転出超過。
- ac, adタイプに属する小規
模な町村の特徴として、人口
の多い都市と接するもしくは
その近辺に位置している。
さらに、大学や専門学校が位
置している。

表1 北陸地方における人口規模との関係からみた市
町村の年齢階級別人口移動タイプ (国勢調査より作成)

人口規模	都市	町	村
10万人以上	金沢市, 富山市		
5万人以上	福井市, 小浜市		
1万人以上	石川市, 白山市, 小松市, 野々市市, 津幡町, 門前町, 小野町, 小坂町, 小野田町, 小野田町, 小野田町		
5,000人以上	野々市市, 津幡町, 門前町, 小野町, 小坂町, 小野田町, 小野田町, 小野田町		
1,000人以上	野々市市, 津幡町, 門前町, 小野町, 小坂町, 小野田町, 小野田町, 小野田町		
1,000人以下	野々市市, 津幡町, 門前町, 小野町, 小坂町, 小野田町, 小野田町, 小野田町		

a : 全人口が転入超過 b : 全人口が転出超過
c : 若年人口が転入超過 d : 若年人口が転出超過
* : 2010~2015年に人口が増加した市町村

10

表2 北陸地方と東北地方・北海道における年齢階級別の転入超過の市町村数
(国勢調査より作成)

年齢階級	北陸地方					東北地方					北海道				
	0	1	4	10	15	0	1	4	10	15	0	1	4	5	
100歳以上	1					1					1				
90~99歳	2					3					1				
80~89歳	2					5					1				
70~79歳	4					8					5				
60~69歳	2	1	1			3	2	6			4	1	1	1	
50~59歳	17	5	1	4		38	4	1	6		7	1	2	1	
40~49歳	25	3	6	3		70	20	11	9		35	12	8	5	
30~39歳	7	1	1			48	11	12	2		45	19	17	9	
20~29歳	5	1	1			38	15	8	2		27	15	11	1	
15歳未満	81	12	11	10	8	227	55	33	30	11	179	39	42	25	

- 0は全ての年齢階級について転出超過になる市町村を示す。
転出超過となる市町村は人口5万人以下の市町村に多い。
北陸地方14.8%, 北海道21.7%, 東北地方25.7%となり、
北陸地方は比較的低い。

11

- 東北地方では1000人以上
の超過を示した市町村は
227市町村中16市町村で
あった。どちらの地方も
全体の約6%の割合。

- 野々市市は金沢市と接し
ており、金沢市に通勤・
通学する人が多いことか
ら他の市からの転入が多
いといえる。

表3 転入超過数が特に多い市 (1000人以上)

市町村	転入超過	転出超過	転入超過	転出超過	転入超過	転出超過	転入超過	転出超過
野々市市	1000	220	1000	220	1000	220	1000	220
富山市	900	180	1400	280	800	160	800	160
津幡町	910	182	1410	282	810	162	810	162
野々市市	1700	340	2700	540	1700	340	1700	340
野々市市	1370	274	2050	410	1370	274	1370	274

(国勢調査より作成)

12

人口5万人以上の主要都市27についての
特徴

- ▶ 2010～2015年で人口増加がみられるのは金沢市、野々市市、鯖江市のみ。
- ▶ 若年層で東京特別区が最大転出先となるのは新潟市、富山市、金沢市、野々市市の4市。東北地方は9市。北海道は札幌市のみ。

人口規模	市	町	村	注
50,000人以上	金沢市、富山市、野々市市、鯖江市			上野、高岡、石川、小浜
20,000人以上	津幡町、野々市市、野島町	野島町、野々市市、野島町		上野、高岡、石川、小浜、金沢市、富山市、野々市市、鯖江市
10,000人以上	津幡町、野々市市、野島町	野島町、野々市市、野島町		上野、高岡、石川、小浜、金沢市、富山市、野々市市、鯖江市
5,000人以上	津幡町、野々市市、野島町	野島町、野々市市、野島町		上野、高岡、石川、小浜、金沢市、富山市、野々市市、鯖江市
1,000人以上	津幡町、野々市市、野島町	野島町、野々市市、野島町		上野、高岡、石川、小浜、金沢市、富山市、野々市市、鯖江市
100人以上	津幡町、野々市市、野島町	野島町、野々市市、野島町		上野、高岡、石川、小浜、金沢市、富山市、野々市市、鯖江市
100人以下	津幡町、野々市市、野島町	野島町、野々市市、野島町		上野、高岡、石川、小浜、金沢市、富山市、野々市市、鯖江市

a: 全人口が転入超過 b: 全人口が転出超過
c: 若年人口が転入超過 d: 若年人口が転出超過
*: 2010～2015年に人口が増加した市町村

Ⅲ 年齢階級別にみた関係圏の特徴

1 若年移動の関係圏

- ▶ 少数の都市が広い関係を持つ。
- ▶ 福井県以外は県庁所在地のみが中心都市となる。
- ▶ 富山市の4市村が金沢市を指向していることから、金沢市の影響力は他の中心都市より強いといえる。

図1 北陸地方における若年移動の中心都市と関係圏（国勢調査より作成） 14

2 壮年移動の関係圏

- ▶ 若年移動に比べ関係圏は小さくなり、4つの年齢階級の中で最も関係圏の数が多かった。
- ▶ 福井県では特に1つの中心都市の影響力が弱い。
- ▶ また、壮年移動と中年移動と後期高齢者移動では、三大都市圏を最大転出入先とする市町村が現れなくなる。

図2 北陸地方における壮年移動の中心都市と関係圏（国勢調査より作成） 15

3 中年移動の関係圏

- ▶ 最大転出入先を特定できず不明瞭となる市町村が増えた。
- ▶ 新潟県では指向先が中心都市ではない市町村が多くなった。また、他の3県では最大転出入先が分散することは少なくなった。

図3 北陸地方における中年移動の中心都市と関係圏（国勢調査より作成） 16

4 後期高齢者の関係圏

- ▶ どの年齢層の関係圏とも似ていない関係圏となった。
- ▶ 新潟県では上越市が圏域を失い、聖籠町が中心都市となった。また、富山県では高岡市が圏域を失い、黒部市が中心都市となった。
- ▶ 都市の人口規模に関係の無い関係圏が形成された。

図4 北陸地方における後期高齢者移動の中心都市と関係圏（国勢調査より作成） 17

Ⅳ おわりに

- ▶ 人口規模で概第三位都市まで中心都市となり、それより小規模な中心都市は人口規模関係なく周辺都市との関係が強い都市が関係圏を形成する。
- ▶ 石川県では人口規模関係なく関係圏が形成されている。
- ▶ 若年層の中心都市が県の人口移動の基盤をなすことが明らかになった。

中心都市	人口(2015年)	人口増加率(2010-2015年)	若年移動	壮年移動	中年移動	後期高齢者移動
金沢市	810,071	-0.21%	○	○	○	○
富山市	270,120	-0.80%	○	○	○	○
野々市市	146,887	-3.38%	○	○	○	○
津幡町	146,846	-3.35%	○	○	○	○
富山県	418,886	-0.74%	○	○	○	○
高岡市	172,120	-2.29%	○	○	○	○
黒部市	40,901	-0.02%	○	○	○	○
石川県	466,690	0.73%	○	○	○	○
富山県	342,119	-1.24%	○	○	○	○
福井県	456,600	0.43%	○	○	○	○
七尾市	55,525	-4.47%	○	○	○	○
福井市	265,504	-0.33%	○	○	○	○
鯖江市	66,160	-2.26%	○	○	○	○
小浜市	25,770	-5.20%	○	○	○	○
鯖江市	62,284	1.23%	○	○	○	○

(国勢調査より作成) 18

▶ 北陸地方の人口移動の特徴は県境を越えるような人口移動が少なく、主要な移動の多くは同じ県内でなされていることが明らかとなった。

▶ 広域中心都市のような県外まで影響力を持つ大都市が存在していないことが県内で人口移動が完結する理由だと考える。

→ 「地方」という区分では同じだが、日本全体の都市システムや都市の階層区分においては広域中心都市を有する地方よりも下位に位置し、区別したうえで説明が必要だと考える。

19

参考文献・参考資料

- ▶ 小池司郎・山内昌和 2010. 2010年の国勢調査における「不詳」の発生状況：5年前の居住地を中心に. 人口問題研究70：325-338.
- ▶ 橋本雄一・村山祐司 1991. 愛知県における男女別・年齢階級別人口移動の特性. 東北地理43：122-138.
- ▶ 森川洋 1992. 兵庫県の1985～90年における年齢階級別人口移動. 人文地理44：439-457.
- ▶ 森川洋 2020a. 北海道における年齢階級別人口移動. 地理科学75：37-53.
- ▶ 森川洋 2020b. 東北地方における年齢階級別人口移動. 都市地理学15：118-128.
- ▶ 平成27年度国勢調査 移動人口の男女・年齢等集計(最終閲覧日2021年2月7日)

20